

# 血管石灰化に影響する透析量



NEPHRO CLINIC

茨腎会 太田ネフロクリニック

武藤大輔 山中祐治 上野智敏 酒井伸一郎

筆頭演者の利益相反: 開示すべき事項なし

## 【目的】

CKD-MBDの概念では高リン血症による異所性石灰化は維持透析患者の生命予後に大きく関与するとされる。

動脈硬化の評価に(大)血管石灰沈着の程度を用いて、透析に関連する因子との差異や相関があるか検証した。

## 【対象】

当院の維持透析患者143名(男性92名/女性51名)

(週3回透析/透析歴2年以上/40～80歳/平均66.4歳)

体幹部X線CT画像(2015年1月～2016年7月施行)

(東芝 Asteion4)

## 【方法】

①大動脈弓は局所②腹部大動脈③大腿動脈は血管径1/4以上の石灰沈着を認めるものを石灰化有りとして算した。部位別の石灰沈着の有無から0群(石灰化無し)～3群(3部位に石灰化有り)に分類し、透析量や検査値etcを比較した。



## 【結果】

部位別には①大動脈弓123/143(約86%)②腹部大動脈135/143(約94%)③大腿動脈101/143(約70%)に血管石灰化が認められた。

検査値ではカルシウム・リン積に微差はあるものの、血清リン値は透析前後とも明らかな有意差を認めなかった。ほぼ管理目標値内にも係わらずCTでは多数の石灰沈着を生じていた。

透析量Kt/Vと透析時間に有意差を認めなかった。

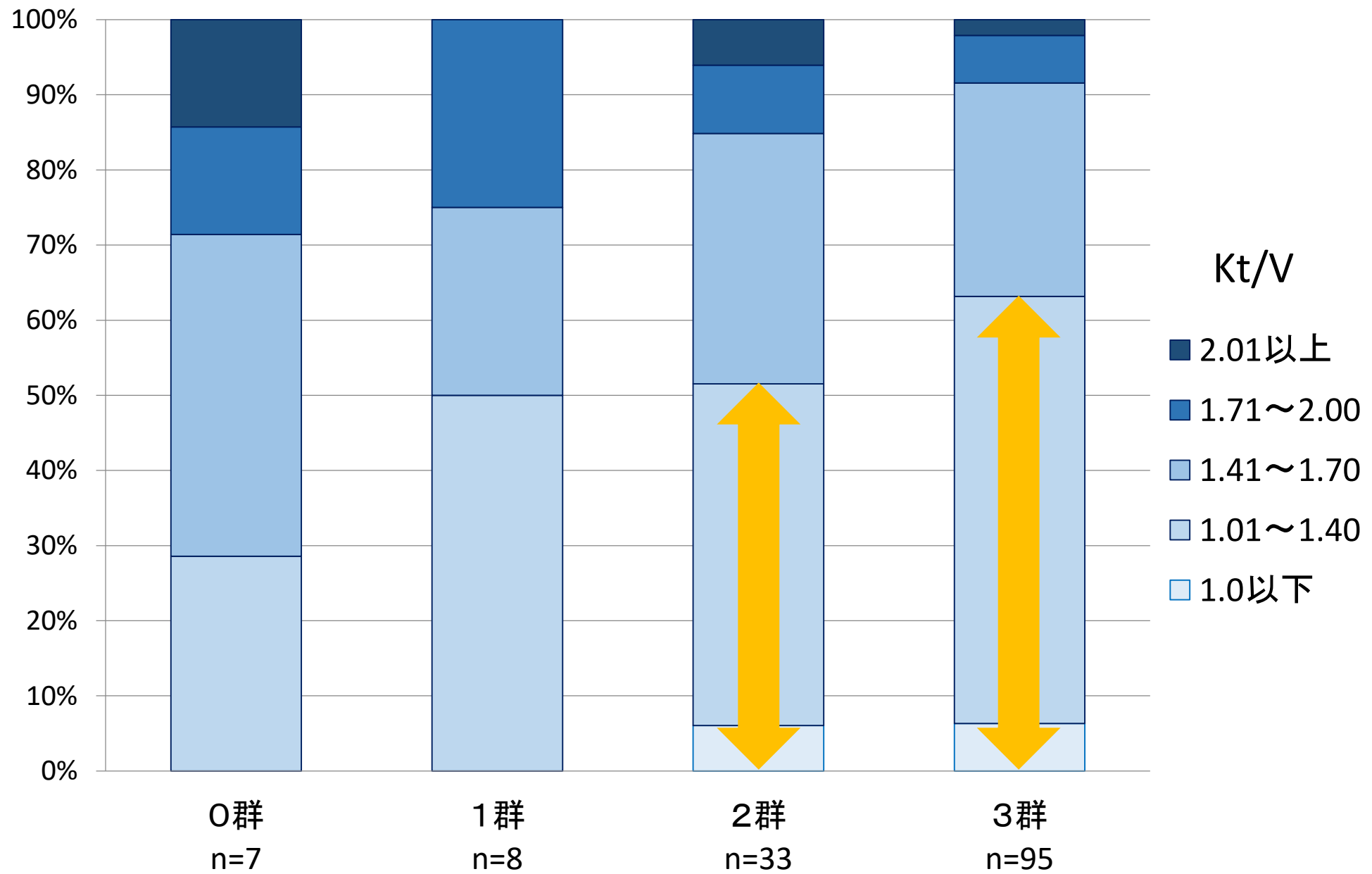
血液流量に有意差がみられた。

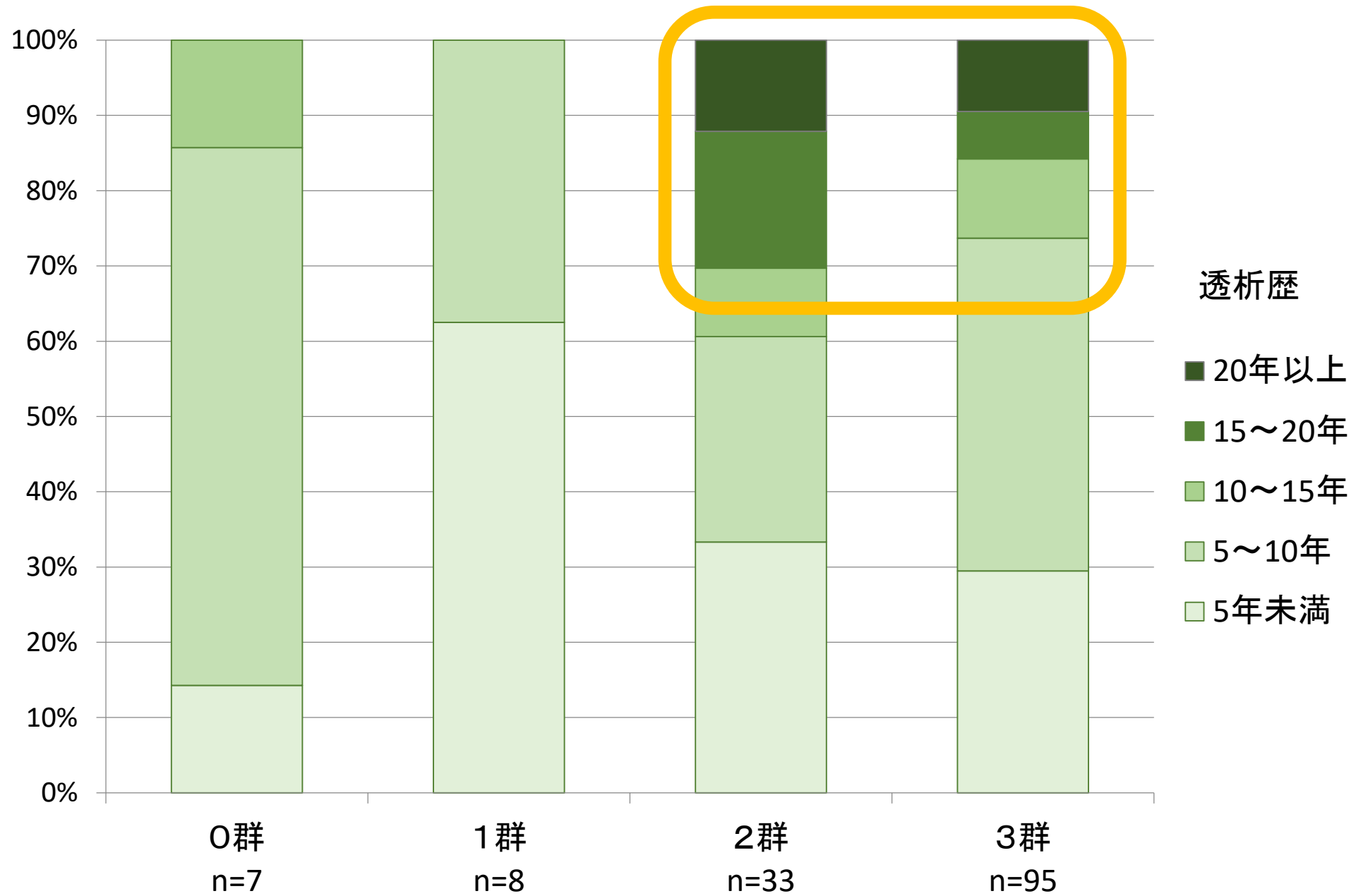
糖尿病患者の血管石灰化が顕著であった。

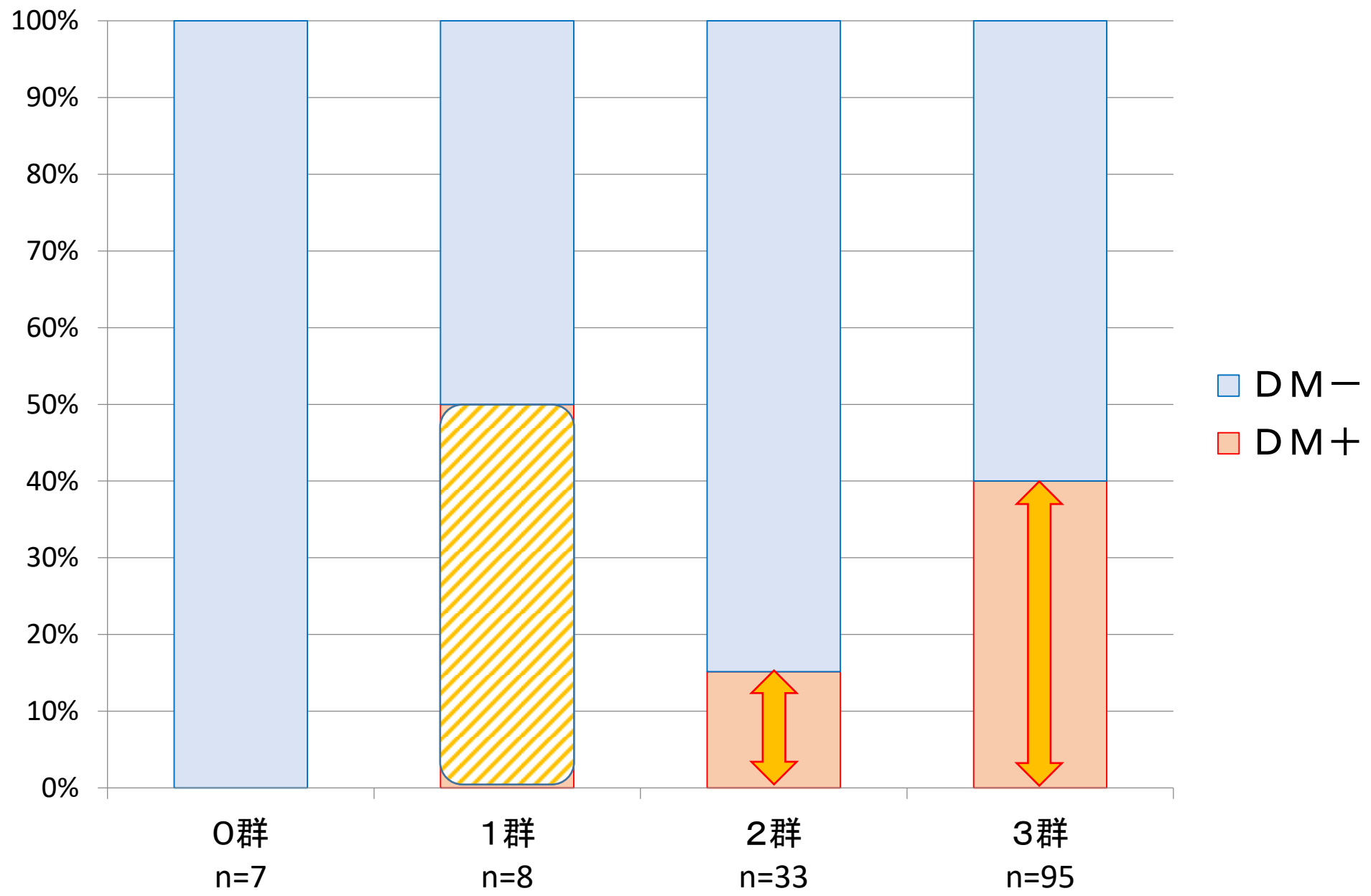
## 平均值表(2016年7月)

	0群 n=7 石灰化無し	1群 n=8 石灰化 1 部位	2群 n=33 石灰化 2 部位	3群 n=95 石灰化 3 部位	P value
年齢(歳)	58.4	57.2	62.4	68.3	P<0.05 (0群vs3群,2群vs3群)
透析歴(年)	7.3	4.6	10.3	9.0	P<0.05 (1群vs2群)
CaIP積	53.4	51.7	57.7	56.2	N.S
Kt/V	1.8	1.5	1.4	1.4	N.S
透析時間 (hour)	4.4	4.3	4.2	4.2	N.S
血液流量 (ml/min)	238.6	187.5	197.9	191.9	P<0.05 (0群vs1群)
糖尿病(%)	0	50.0	15.2	40.0	

N.S = Not Significant









## 【考察】

血管石灰化に影響していたのは年齢、長期透析歴、糖尿病の有無と考えられた。

心機能や動脈硬化による血圧の不安定性は十分な透析量の確保を困難にする要因ではあるが、今回の結果から血液流量と血管石灰化の程度に相関がある可能性が考えられた。